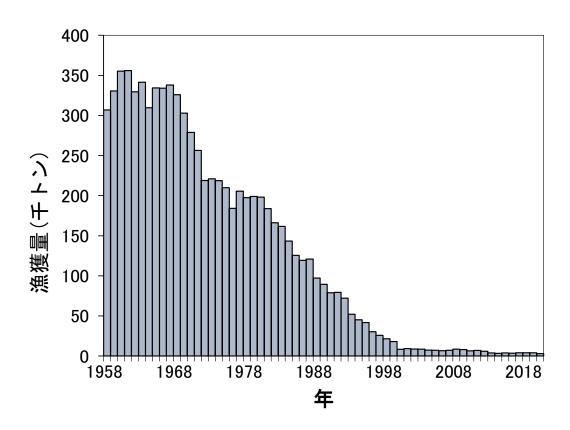


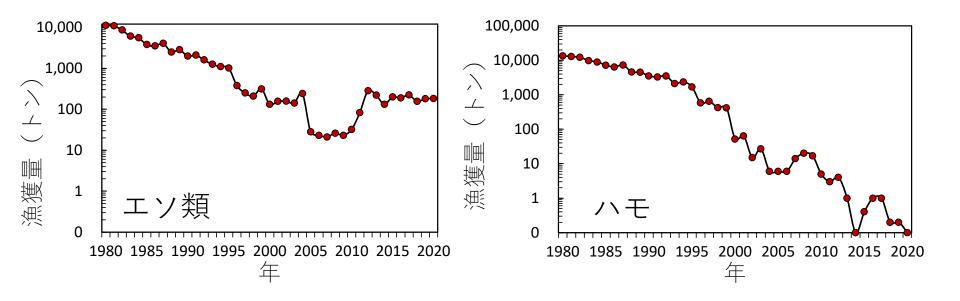
東シナ海底魚類 令和3年度資源評価結果

#### 漁獲の動向①



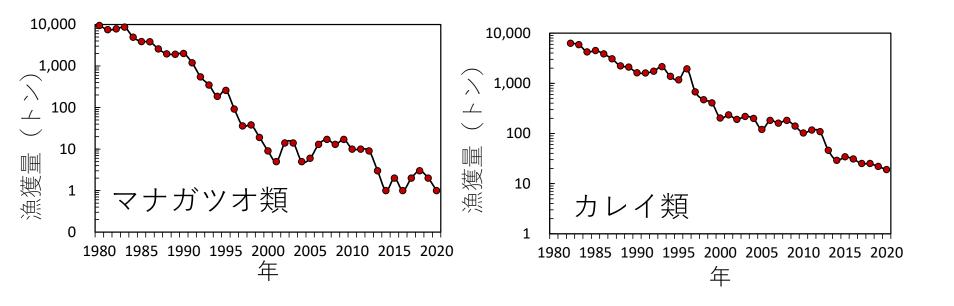
- 以西底びき網漁業の全漁獲量 1960年代は30万トン台で推 移していたが以降は減少に転じる
- 2020年の以西底びき網漁業の全漁獲量はおよそ3.2千トン

# 漁獲の動向②



● 2020年はエソ類(マエソ、ワニエソ、クロエソ、トカゲ エソ):183トン、ハモ:0トン

### 漁獲の動向③



● 2020年はマナガツオ類(マナガツオ、コウライマナガツオ):1トン、カレイ類(メイタガレイ、ナガレメイタガレイ、ムシガレイ):19トン

#### 資源評価の流れ

- 生物測定
  - ・成長・成熟
- 以西底びき網基本統計
- 資源量調査
  - ・着底トロールによる分布生態調査

MARSSモデルによる 資源量指数の推定※ (参考) 中国•韓国漁獲量 水準・動向の判断 漁業資源評価 ・適切な漁獲水準

・その他管理方策の提言

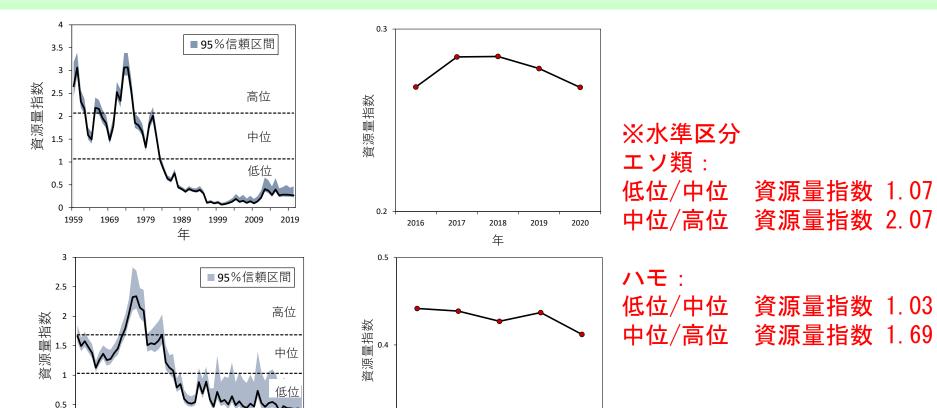
※MARSSモデル(多変量自己回帰 状態空間モデル):

時系列的解析手法を応用して欠損値 の補間・推定を行うモデルの一つ。

本モデルを使うことにより、以西底 びき網漁業の操業海域の大幅な縮小 によって漁業データが得られなく なった海域についても適切に補間し、 資源量指数の推定が可能となる。

### 資源の動向①

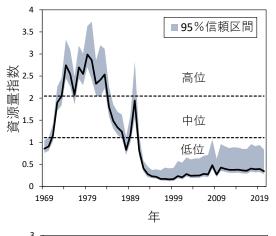
年



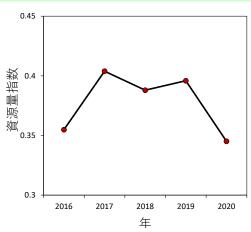
● 資源水準:エソ類(左上)、ハモ(左下)、いずれも「低位」

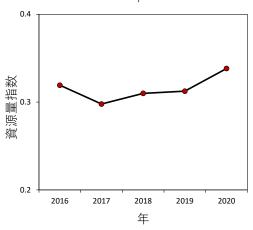
● 資源動向:直近5年の資源量指数の推移から エソ類(右上)、ハモ(右下)、いずれも「横ばい」

## 資源の動向②









# ※水準区分マナガツオ類:

低位/中位 資源量指数 1.10 中位/高位 資源量指数 2.05

#### カレイ類:

低位/中位 資源量指数 1.04 中位/高位 資源量指数 1.77

- 資源水準:マナガツオ類(左上)、カレイ類(左下)、 いずれも「低位」
- 資源動向:直近5年の資源量指数の推移から、マナガツオ類 (右上)、カレイ類(右下)、いずれも「横ばい」 <sup>7</sup>

#### 資源評価のまとめ

● 資源の動向および水準は

エソ類 低位 横ばい

ハモ 低位 横ばい

・マナガツオ類 低位 横ばい

カレイ類 低位 横ばい